

## 助成活動実績報告書

企画名	旭川源流大学 旭川まるごと探検隊
団体名	あさひがわげんりゅうだいがくじっこういいんかい 旭川源流大学実行委員会

### ①活動の目的について

1995年から毎年実施された「中高生のための水辺教室」の活動を前史として、旭川源流部の鏡野町富地区・新庄村・蒜山津黒高原の3地区を3年毎に1回1泊2日で地元と共催でボランティア調査・学習をするという「旭川源流大学」の企画は、2010年度に開始されてから毎年継続して実施されてきており、2013年度は4年目にあたる。丁度、旭川の3地区を一回りしたことになる。「中高生のための水辺教室」の時代から実行委員会の体制や観察教材の準備や調査地域での地元交流は形成できていたが、活動を継続することで地元との交流や調査データがさらに蓄積されていき、①地元の地域課題や②源流大学の企画運営の課題や③行政や他団体との交流課題などがより鮮明になってきた。活動の目的も当初の①市内の科学系サークルの中高生に県内の野生生物調査の良好なフィールドと良質な学習プログラムを提供することから、②地元市民の要望を取り入れた学生による自然保全のボランティア作業を付け加えてきている。2012年度からは、更に市民の参加プログラムも1日講習という形で追加して、活動目的に③市民に良好な自然体験プログラムを提供することが追加されてきた。またこの年同時に「旭川源流大学実行委員会」の活動地域の範囲を広げて、旭川流域の源流部だけでなく、中流域（＝竹枝かいぼり調査・宇甘川大野川生き物調査）や下流の干潟（＝高島干潟調査）までを年1回の市民による野生生物モニタリング調査を開始してきた。このことで、活動の目的に④旭川の野生生物の市民による定期観察調査（市民によるモニタリング調査）を追加している。

### ②内容について（学習会、集会などは開催日や内容、参加者数などの設備・物品購入などの発注、納品、竣工、支払いなどの案件に関わる事実の掲載）

「旭川源流大学指導者研修」日時は5月3日～4日、会場は鏡野町富地区の白賀川・黒郷川・余川の河川敷と富公民館・富郷土資料館・たたら資料館・旧森江邸・布施神社・高齢者センター（夏の宿舎予定）・白賀釣りセンター（本部宿舎）、余川の樫西和紙製作所・水力を使う森江製材所・のとり温泉「天空の湯」。内容は地元の団体「白賀川地域協議会」と各施設との打ち合わせと、実習プログラムの準備作業と資料サンプル採集を生物（底生生物・淡水魚・植物）・水質・地質の各分野で行う。参加人員は26人。予算計上の主なものは、輸送費関係でバス借上げ代で3社から見積もりを行い中鉄観光に設定した。

### ③この活動によって達成された成果

2013年5月3日～4日指導者講習会（26人）、同年8月9日～10日中高生キャンプ（中高生32名・スタッフ28名）で実施。

①第4回旭川源流大学中高生キャンプを実施して地元にも参加者にも今後の活躍に繋がる経験を積むことになったこと。②安全に有効な自然体験プログラムの開発を行うことができた。③旭川源流部富地区に於いて、数十人規模の宿泊研修を定期的にも実施する企画運営の実績ができた。④鏡野町教育委員会の後援で富地区の歴史文化資料（たたら資料館・旧森江邸・富歴史文化資料館）を有効活用することができた。⑤樫西地区の和紙保存会の方々の協力で和紙作成の過程の見学実習を行うことができた。⑥余川の水力を使用した珍しい製材機の見学実習を行うことができた。⑦地元婦人会の協力により参加者全員の2日間の食事を安価に提供して頂くことができた。⑧地元の白賀川地域協議会の方々の協力により白賀川の遊歩道補修・トイレハウスの補強・炭焼き作業のボランティア作業を安全に実施することができた。⑨白賀釣りセンターの協力により、ヤマメ放流と野生のオオサンショウウオ見学を実施できた。⑩理科大学地域支援研究会の協力により、水生生物および岩石地質の調査観察を安全に実施できた。⑪自然保護センター西本孝氏などの協力で植物観察学習を実施できた。⑫旭川流域ネットワークの方々の協力により、「旭川源流の碑」建立活動と「たたら製鉄」の講習を実施することができた。⑬鏡野町長のご厚意により、旭川源流大学修了証書を参加者全員に発行することができた。⑭国土交通省岡山河川事務所および環境省中国四国環境事務所の後援を頂いた。⑮岡山市および岡山市教育委員会、鏡野町および鏡野町教育委員会の後援を頂いた。⑯中高生の参加者は、山陽学園中学高等学校生物部（6名）、芳泉中学校科学部（12名）、関西高等学校理学部（6名）、岡山理科大学附属高等学校科学部（8名）、計32名。スタッフ28名（講師4名、大学生スタッフ16名、本部運営スタッフ8名）で総勢60名。現地の白賀川地域協議会の方々は森江勇夫会長ほか20名、婦人会の方々10名の計30名。開会式や施設警備などで鏡野町長ほか4名の参加。共催団体の岡山NPOセンターから2名、協賛団体はおかやま環境ネットワークの他、損保ジャパンおよび日本興亜損保のセイブジャパンプロジェクト。

### ④今後の計画・展望について

富地区での水生生物の生息調査資料は安全な観察地の情報が更に蓄積することができた。植物に於いては2011年の調査で片山久氏による標本があり、今回の西本氏の観察データと合わせて集積が進んだ。哺乳類の観察データは2011年の理科大の小林秀司氏のグループ研究がある。鳥類は2011年と今回の2013年の2回分の岡山野鳥の会の大塚利昭氏による観察データがある。今後の観察プログラムの熟成のためには、これらのデータを集計して近年の富地区の野生生物の概況を総攬する資料を作成する必要がある。また、両生類や爬虫類の調査は、近年始まったばかりであり、現在オオサンショウウオの生息調査を始めているところである。関係者全員の皆さまの温かいご協力に支えられてこれまで無事故で継続したことに、心より感謝申し上げます。